

**Chemistry**  
*with Truly  
Wide-Ranging Applications*

“中期経営課題「プロジェクトAP-G 2013」の戦略的柱である、  
「グリーンイノベーション事業拡大」、「アジア・新興国事業拡大」には  
3つの事業カテゴリーと6つのセグメントがそれぞれのテーマをもち、化学反応しています。  
東レグループは、ビジネスパートナーである世界中のお客様のために、  
市場ニーズに合わせた製品・サービスを提供し、各国・各地域の皆様と良好な関係を目指していきます。”



### 基幹事業

- 繊維事業
- プラスチック・ケミカル事業

### 戦略的拡大事業

- 情報通信材料・機器事業
- 炭素繊維複合材料事業

### 重点育成・拡大事業

- 環境・エンジニアリング事業
- ライフサイエンス事業

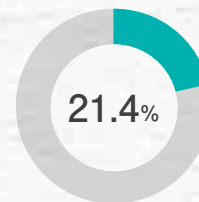
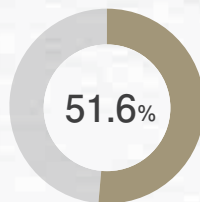
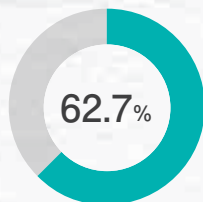
*Our Kind of Chemistry*



## 基幹事業

## 戦略的拡大事業

- 売上高構成比
- 営業利益構成比



### セグメント

FIBERS & TEXTILES  
繊維事業

PLASTICS & CHEMICALS  
プラスチック・ケミカル事業

IT-RELATED PRODUCTS  
情報通信材料・機器事業



### 主要製品

ナイロン・ポリエステル・アクリル等の糸・綿・紡績糸及び繊維物、不織布、人工皮革、アパレル製品等

ナイロン・ABS・PBT・PPS等の樹脂及び樹脂成形品、ポリオレフィンフォーム、ポリエステル・ポリプロピレン・PPS等のフィルム及びフィルム加工品、合成繊維・プラスチック原料、ゼオライト触媒、医・農薬原料等のファインケミカル、動物薬等（下記「情報通信材料・機器」に含まれるフィルム・樹脂製品を除く）

情報通信関連フィルム・樹脂製品、電子回路・半導体関連材料、液晶用カラーフィルター及び同関連材料・機器、プラズマディスプレイパネル用材料、磁気記録材料、印写材料及び同関連機器等

### 用途例

- ・紳士服、婦人服（コート：人工皮革、ドレスシャツ：ポリエステル綿混織物、ストッキング：ナイロン製品、アパレル製品、水着）
- ・自動車（カーシート：ポリエステル繊維、エアバッグ：ナイロン繊維、シートベルト：ポリエステル繊維）
- ・スポーツウェア
- ・家具・インテリア（ソファ：人工皮革、カーペット：BCFナイロン、カーテン：非ハロゲン難燃加工素材）
- ・紙おむつ：ポリプロピレン長繊維不織布
- ・テント：ポリエステル繊維

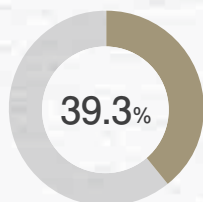
- ・自動車（ラジエータータンク：ナイロン樹脂、インテークマニホールド：ナイロン樹脂、コネクタ：PBT樹脂、ハイブリッドカーのコンデンサー：ポリプロピレンフィルム）
- ・家電製品（洗濯機、掃除機、エアコン等のハウジング：ABS樹脂）
- ・電動工具ハウジング（電動丸ノコハウジング：ナイロン樹脂）
- ・ヘルメット：ナイロン樹脂
- ・太陽電池パネル：PETフィルム
- ・ポテトチップスの袋：ポリプロピレンフィルム
- ・動物薬（イヌ用、ネコ用）

- ・薄型テレビ（PETフィルム、PDP背面板ベースト、カラーフィルター製造用機器）
- ・パソコン：回路材料、PETフィルム、ポリイミドコーティング剤
- ・携帯電話：カラーフィルター、LCP樹脂、回路材料、PETフィルム
- ・印刷：水なし平版、樹脂凸版、機器
- ・デジタルビデオカメラの記録用フィルム：PETフィルム
- ・自動車：車内マルチメディアLAN：光ファイバー
- ・半導体：半導体用コーティング材料

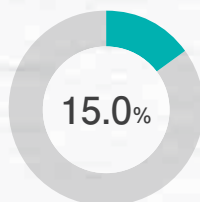
注記：その他事業の売上高構成比0.9%、営業利益構成比0.9%は含まれておりません。

## 重点育成・拡大事業

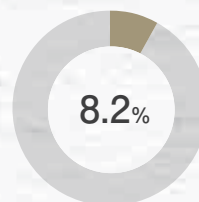
事業カテゴリー



CARBON FIBER COMPOSITE MATERIALS  
炭素繊維複合材料事業



ENVIRONMENT & ENGINEERING  
環境・エンジニアリング事業



LIFE SCIENCE  
ライフサイエンス事業

セグメント



主要製品

炭素繊維・同複合材料及び同成形品等

総合エンジニアリング、マンション、  
産業機械類、環境関連機器、水処理用  
機能膜及び同機器、住宅・建築・土木  
材料等

医薬品、医療製品、分析・調査・研究  
等のサービス関連事業等

用途例

- 飛行機の構造部材：炭素繊維複合材料
- 橋の補強部材：炭素繊維織物
- パソコン筐体：炭素繊維成形品
- 風力発電用風車：炭素繊維
- 船舶・ボート：炭素繊維
- 産業用機器部材：炭素繊維、同成形品

- 海水淡水化設備：水処理機能膜及び同機器
- 下排水処理設備：水処理機能膜及び同機器
- マンション
- 建材：住宅用外壁材、ビル内装用建材
- 工場・生産装置：総合エンジニアリング

- 医薬品（天然型インターフェロンβ製剤、プロスタサイクリン、止痒薬）
- 医療機器（血液透析機、人工透析用ダイヤライザー・装置）
- 物性分析サービス

Toray's Business  
At a Glance

## 基幹事業

FIBERS & TEXTILES

## 繊維事業

年度	2009	2010	増減率	2011見通し
売上高	5,252	5,841	+11.2%	6,200
営業利益	163	324	+98.8%	430

2011年度の見通しは、2011年8月4日に発表したものです。  
\*2010年度から、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しており、2009年度の数値についても組み替えて表示しています。

ROA: 8.0%  
営業利益率: 5.6%  
設備投資額: 166億円

■ 売上高 ■ 営業利益  
2009年度 2010年度 2009年度 2010年度  
(単位:億円)



### 2010年度連結業績の概況

2010年度の繊維セグメントの売上高は5,841億円(前年度比11.2%増)、営業利益は324億円(同98.8%増)となりました。

東レ単体は、産業用途がエアバッグ向け等の自動車関連用途に加えて一般資材用途でも堅調に推移し、衣料用途でも販売数量を拡大しました。

国内子会社では、一部商事子会社の大手SPA向け縫製品事業や製造子会社が堅調に推移しました。

海外子会社では、中国の縫製品事業及び韓国・中国の紙おむつ向け高機能PP長繊維不織布事業や、タイヤチェコのエアバッグ向け原糸・基布事業、中国のテキスタイル事業、中国・韓国・アセアンのポリエステル繊維事業等の各事業が堅調に推移しました。

### 2011年度OUTLOOK

国内では円高の定着や原料価格の乱高下に加え、東日本大震災により自動車用途が影響を受けるほか、衣料用途でも買い控え傾向が懸念されます。グローバルにも、国際的な金融不安による需要の減退や原燃料価格の混乱等、新興国を中心に繊維需要は拡大傾向は期待できるものの、事業環境は年後半にかけて予断を許さない状況と見ています。

こうした事業環境の中、当社は中国を中心とした成長地域や、自動車及び環境分野等の成長分野での事業拡大に取り組むとともに、素材開発に立脚した企画提案型の縫製品

事業を強化・拡大し、基幹事業としての安定的な収益体質の維持・強化とグローバルな事業拡大を目指します。

2011年度の売上高は6,200億円、営業利益は430億円を見込んでいます。

### トピックス

#### 高機能ポリプロピレン長繊維不織布 (PPスパンボンド) 事業の中国・インドネシアでの増強

東レグループは、PPスパンボンド事業の中国での生産設備増強と、インドネシアでの新会社設立および生産設備新設を決定しました。

高機能PPスパンボンド市場は、中国及びASEAN各国において、高い経済成長と国民所得増による生活様式の高度化で乳・幼児用の紙おむつの需要が急速に伸びることが予測されます。

東レグループのPPスパンボンド事業は、韓国のToray Advanced Materials Korea Inc. で年産約43,000トン、中国の東麗高新聚化(南通)有限公司(TPN)に年産約38,000トンの生産能力を有し、日本、韓国、中国、ASEANなどアジア各国市場向けに幅広く販売しています。中国TPN社での生産設備増設(年産約20,000トン、2012年7月稼働予定)とインドネシアでの生産設備新設(年産約20,000トン、2013年6月稼働予定)後はグループ合計で年産約121,000トン規模の生産能力を保有し、成長著しい中国やASEANをはじめとする新興国市場への拡販を推進してまいります。

#### 【高機能PPスパンボンド】

“紙おむつなどの衛生材料用途、手術用のガウンや覆い布などの医療用途、その他工業資材、農業資材用途などの分野で使用されています。”



## 基幹事業

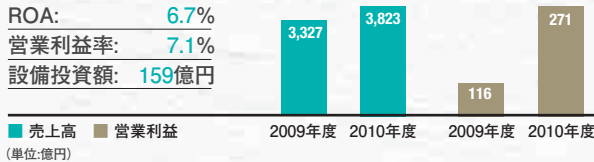
PLASTICS & CHEMICALS

# プラスチック・ケミカル事業

年度	2009	2010	増減率	2011見通し
売上高	3,327	3,823	+14.9%	4,400
営業利益	116	271	+134.2%	310

2011年度の見通しは、2011年8月4日に発表したものです。  
\*2010年度から、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しており、  
2009年度の数値についても組み替えて表示しています。

ROA: 6.7%  
営業利益率: 7.1%  
設備投資額: 159億円



## 2010年度連結業績の概況

2010年度のプラスチック・ケミカルセグメントの売上高は3,823億円(前年度比14.9%増)、営業利益は271億円(同134.2%増)となりました。

東レ単体は、樹脂事業は、新興国向け自動車用途や電機・電子用途で拡販を推進しました。また、フィルム事業は、太陽電池用途をはじめ工業材料分野全般で販売が堅調に推移しました。

国内子会社では、フィルム加工子会社をはじめとした製造子会社、商事子会社ともに総じて堅調に推移しました。

海外子会社では、好調な需要を背景に、フィルム子会社が各社とも好調に推移しました。マレーシアの樹脂子会社は、アジアやその他地域の新興国で家電用途を中心に拡販を進めました。

## 2011年度OUTLOOK

原燃料価格の乱高下が見込まれる一方で、自動車用途を中心に東日本大震災の影響を一部受けますが、環境配慮型製品の需要拡大が見込まれ、中国を中心としたアジアの需要は高成長が期待されます。

こうした事業環境の中、樹脂事業では、中国をはじめとしたアジア市場での拡販を積極的に進めます。また、フィ



ルム事業では、欧米、アジアのフィルム子会社を中心に、工業・包装材料用途で高付加価値品の拡販を進めます。2011年度の売上高は4,400億円、営業利益は310億円を見込んでいます。

## トピックス

### 中国における樹脂事業体制の再編について

東レグループは、中国市場における当社樹脂製品の生産・販売機能の再編を実施しました。新たに中国樹脂事業の統括会社として「東麗塑料(中国)有限公司」(Toray Plastics (China) Co., Ltd. (TPCH))、及び同社の子会社として、華北・華東地区における樹脂コンパウンドの生産・販売会社「東麗塑料科技(蘇州)有限公司」(Toray Plastics (SuZhou) Co., Ltd.)を設立し、2010年8月より営業を開始しました。

東レはTPCHを中国におけるグループ樹脂事業の中核拠点として位置づけ、成長著しい中国市場において樹脂事業のさらなる拡大を目指します。

東レグループは、販売面では既存商圏の拡大と新規販路の開拓を推進するとともに、生産体制についても拡充を加速し、ナイロン、PBT(ポリブチレンテレフタレート)、及びPPS(ポリフェニレンサルファイド)など高機能樹脂のコンパウンド比率を拡大します。また、技術開発機能も強化し、中国の市場ニーズに対応した新グレードを拡充していきます。これらの取り組みにより、総合樹脂メーカーとして幅広く、かつ迅速に、お客様にソリューションを提供してまいります。

## 【エコトヨラック®】

“お客様と協働で、使用済み家庭用エアコン室内機のファンから回収した「ガラス繊維強化AS樹脂 (ASG)」を新品のファンに使用するクローズドマテリアルリサイクルや、ポリ乳酸を少量配合したABSグレードの開発など、環境に配慮した幅広い製品展開をしています。”



## 戦略的拡大事業

IT-RELATED PRODUCTS

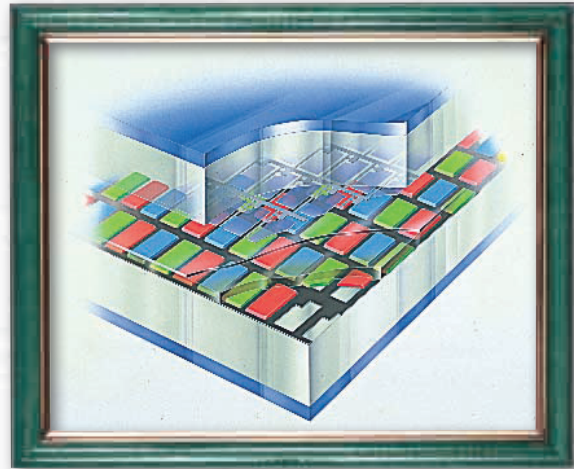
### 情報通信材料・機器事業

年度	2009	2010	増減率	2011見通し
売上高	2,304	2,620	+13.7%	2,700
営業利益	250	422	+68.9%	410

2011年度の見通しは、2011年8月4日に発表したものです。  
\*2010年度から、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しており、2009年度の数値についても組み替えて表示しています。

ROA: 12.6%  
営業利益率: 16.1%  
設備投資額: 92億円

■ 売上高 ■ 営業利益  
2009年度 2010年度 2009年度 2010年度  
(単位:億円)



#### 2010年度連結業績の概況

2010年度の情報通信材料・機器セグメントの売上高は2,620億円（前年度比13.7%増）、営業利益は422億円（同68.9%増）となりました。

東レ単体は、FPD用途や電子部品用途などでフィルム及びフィルム加工品の拡販を進めたほか、液晶カラーフィルター、半導体関連材料、プラズマディスプレイ用材料の販売量が拡大しました。

国内子会社では、フィルム加工子会社がFPD関連フィルム加工品の拡販を進め、ファインケミカル子会社も堅調に推移しました。

海外子会社では、韓国では、フィルム及びフィルム加工品関連子会社が好調に推移しましたが、回路材料関連子会社はFPDパネルメーカーの生産調整の影響を受けました。

サブセグメント	2009	2010	増減率
ディスプレイ材料	854	1,056	+24%
電子部品・半導体・回路材料	810	927	+15%
記録材料	313	328	+5%
機器他	327	309	-6%

#### 2011年度OUTLOOK

大型FPDについては、TVなど末端製品の需要が伸び悩み、パネルメーカーの生産調整は続いています。下期から緩やかな回復が見込まれます。携帯電話は、スマートフォン向けを中心に、堅調な需要が持続しており、関連部材の荷動きも順調に推移する見通しです。

こうした事業環境の中、FPD用途及び電子部品用途のフィルム・フィルム加工品の拡販を進めるとともに、フィ

ルムのグローバル生産体制の最適化を進め、コスト競争力の改善に取り組みます。また、半導体コーティング材料でのシェア拡大や拡販も推進します。

2011年度の売上高は2,700億円、営業利益は410億円を見込んでいます。

#### トピックス

##### 光学用フィルムの追加増産を決定

FPD関連市場の中期的な成長拡大を見据え、引き続き光学用フィルムの安定供給を維持するために、光学用フィルムの追加増産を決定しました。東レの三島工場と岐阜工場、東レフィルム加工株式会社中津川工場、および韓国Toray Advanced Materials Korea Inc. (TAK) 亀尾工場を対象にフィルム生産設備の増設・改造を実施し、2012年8月までに反射板、タッチパネル向けの供給能力を現有比倍増、偏光板および表面保護フィルムを5割増強します。TAKでは、ベースフィルムに加えてフィルム加工設備も増設し、2012年1月までに加工能力を3割増強します。今回の増産対応に伴う設備投資額は約220億円を計画しています。

光学用フィルムは、主力用途であるLCDなどFPD関連市場の好調に加えて、今後はタッチパネルの薄型・軽量化に向けたフィルム部材の普及により、需要のさらなる拡大が見込まれています。東レは現在、FPD関連市場の旺盛な需要に対応して、光学用フィルムの最適生産体制の構築を進めています。

#### 【トプティカル®】

“液晶表示装置用カラーフィルター。色再現の正確性が高く、熱に強く、耐久性に優れた素材を使っているため、液晶ディスプレイの表示用フィルターとして最適。有害な重金属を使用していないので、環境に優しい製品です。”



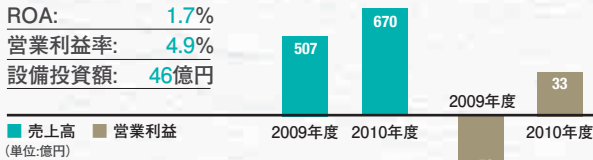
## 戦略的拡大事業

CARBON FIBER COMPOSITE MATERIALS\*

### 炭素繊維複合材料事業

年度	2009	2010	増減率	2011見通し
売上高	507	670	+32.2%	800
営業利益	△53	33	-	100

2011年度の見通しは、2011年8月4日に発表したものです。  
\*2010年度から、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しており  
2009年度の数値についても組み替えて表示しています。



#### 2010年度連結業績の概況

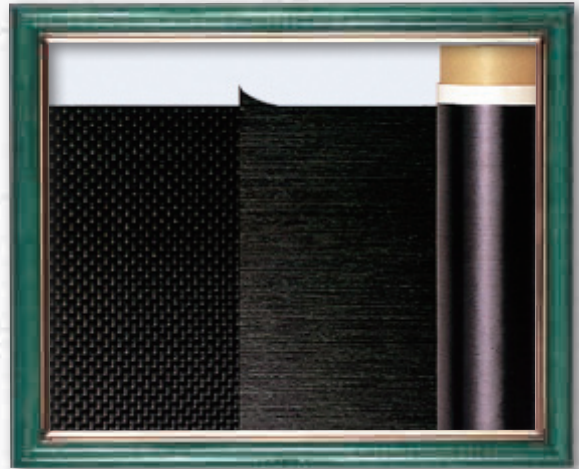
2010年度の炭素繊維複合材料セグメントの売上高は670億円（前年度比32.2%増）、営業損益ベースでは黒字転換し、33億円の営業利益を計上しました。

航空宇宙、スポーツ、一般産業の各用途とも需要回復が継続する中で、当社グループは積極的な拡販により市場シェアを拡大し、炭素繊維“トレカ<sup>®</sup>”及び“トレカ<sup>®</sup>”プリプレグ（炭素繊維樹脂含浸シート）の販売量、生産量が増加しました。また、パソコン筐体を中心に、炭素繊維成形品（コンポジット）の販売も拡大しました。併せて、原燃料価格の高騰が続く中で、販売価格の値戻しを実行しました。

用途別売上高	2009	2010	増減率
航空宇宙用途	224	277	+24%
スポーツ用途	97	138	+43%
一般産業用途	186	255	+37%

#### 2011年度OUTLOOK

世界同時不況の影響を受け、炭素繊維の需要は2009年には減少しましたが、2010年に入って市場は急速に回復し、2011年も、航空機用途の着実な需要拡大、環境・エネルギー関連用途をけん引役とする産業用途の飛躍的拡大、自転車等新規用途の拡大によるスポーツ用途の安定成長により、前年比15%以上の需要の伸びが見込まれます。



こうした事業環境の中、航空宇宙、スポーツ、一般産業の各用途での拡販や、拡大が期待される中国をはじめとする新興国市場開拓を進めるとともに、原燃料価格高騰に対する価格転嫁を推進します。

2011年度の売上高は800億円、営業利益は100億円を見込んでいます。

#### トピックス

##### 韓国で炭素繊維の本格事業化を決定

東レ及びToray Advanced Materials Korea Inc. (TAK) は、韓国に年産2,200トンの炭素繊維量産工場を建設することを決定しました。

新工場は、世界ナンバーワンの品質競争力を持つ東レの最新鋭技術を導入し、約630億ウォン（約50億円）を投じて、TAKの亀尾第3工場（慶尚北道亀尾市）に建設します。生産能力は年2,200トンで、2011年初に着工、2013年1月の稼働開始を計画しています。同社では、産業・スポーツ用途で業界のデファクトスタンダードとなっている高強度普通弾性率糸を生産します。

韓国ではこれまで炭素繊維をほぼ全量輸入に依存してきましたが、今回のTAKにおける新工場の建設により国内産化が実現し、安定した供給体制が確立されます。これにより、スポーツ用途から一般産業用途にわたり幅広く、韓国国内のお客様と一体となって炭素繊維複合材料の市場開発を加速するとともに、韓国・中国を中心としたアジアで急速に拡大している炭素繊維需要に確実に対応していきます。

##### 【トレカ<sup>®</sup> (PAN系炭素繊維)】

“「軽くて、強くて、剛い」という優れた特性を生かして、航空・宇宙分野をはじめとしてスポーツ・レジャー用品、一般産業用途まで様々な用途で使用され、今後も需要拡大が期待されます。”



## 環境・エンジニアリング事業

年度	2009	2010	増減率	2011見通し
売上高	1,598	1,782	+11.5%	1,900
営業利益	39	33	-13.0%	80

2011年度の見通しは、2011年8月4日に発表したものです。  
\*2010年度から、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しており、2009年度の数値についても組み替えて表示しています。

ROA: 2.0%  
営業利益率: 1.9%  
設備投資額: 56億円

■ 売上高 ■ 営業利益  
2009年度 2010年度 2009年度 2010年度  
(単位: 億円)



### 2010年度連結業績の概況

2010年度の環境・エンジニアリングセグメントの売上高は1,782億円(前年度比11.5%増)、営業利益は33億円(同13.0%減)となりました。

水処理関連事業では、東レの逆浸透膜の海外大型プロジェクト向け販売が拡大し、米国・中国の水処理関連子会社が順調に売上を拡大しました。

国内子会社では、商事子会社は機械輸出の取扱高を拡大するも、エンジニアリング子会社の業況が低調に推移しました。

### 2011年度OUTLOOK

水処理事業では、一部地域による政情不安の影響はあるものの、市場は引き続き拡大基調にあります。このような事業環境の中、2011年初からRO膜・エレメントの本格生産・販売を開始した「藍星東麗膜科技(北京)有限公司」(TBMC)における中国でのシェア獲得を含めたグローバルでの案件獲得を行うとともに、徹底的なコストダウンを推進します。

エンジニアリング事業においては、環境・エネルギー分野での設備投資の拡大が見込まれ、リチウムイオンバッテリー関連機器や太陽電池関連機器における受注の拡大を目指します。

2011年度の売上高は1,900億円、営業利益は80億円を見込んでいます。

### トピックス

#### 東レの逆浸透膜、中国の海水淡水化プラント向けに相次いで受注

東レは中国の青島(山東省青島市)ならびに曹妃甸(河北省唐山市)の海水淡水化プラント向け逆浸透(RO)膜納入を相次いで受注しました。2つのプラントの合計造水量は15万m<sup>3</sup>/日で、いずれも2011年中に稼働を開始する予定です。特に青島の海水淡水化プラントは、造水量が10万m<sup>3</sup>/日と海水淡水化プラントでは中国最大規模であり、中国初の本格的な飲料水向けプラントとなります。

中国では、高い経済成長に伴う工業化の進展と都市部の人口増加により、水の使用量が急激に増加する一方、北部では干ばつの影響などを受け、水の供給不足問題が起きています。こうした状況の中、水処理膜を用いた海水淡水化や下排水の再利用への需要が高まっており、中国のRO膜市場は年率20%以上の成長を続けています。

東レは、2009年7月に中国藍星(集団)股份有限公司と合併で、海外企業としては初となるRO膜の製膜及びエレメント生産を行う「藍星東麗膜科技(北京)有限公司」(TBMC)を設立し、中国における安定した製品供給体制を確立しています。東レは今後とも高度な水処理技術と藍星グループが持つ強力な販売ネットワークを活かして、中国における水処理膜事業の拡大を加速します。

#### 【ロメンブラ®(逆浸透膜エレメント)】

“東レの先進的な高分子技術によって開発された逆浸透膜エレメント。海水やかん水の淡水化から超純水の製造まで、あるいは排水の処理及び再利用から有価物の回収や食品の濃縮まで、幅広く活用できる豊富な製品が揃っています。”

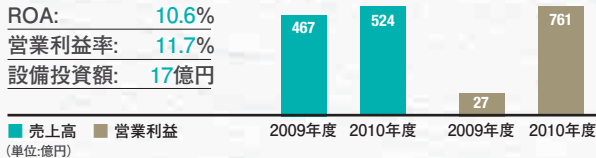


## ライフサイエンス事業

年度	(単位:億円)			2011見通し
	2009	2010	増減率	
売上高	467	524	+12.4%	550
営業利益	27	61	+124.3%	60

2011年度の見通しは、2011年8月4日に発表したものです。  
\*2010年度から、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しており、2009年度の数値についても組み替えて表示しています。

ROA: 10.6%  
営業利益率: 11.7%  
設備投資額: 17億円



### 2010年度連結業績の概況

ライフサイエンスセグメントの売上高は524億円（前年度比12.4%増）、営業利益は61億円（同124.3%増）となりました。

医薬品では、2009年10月に国内でのC型慢性肝炎に対するリバビリンとの併用の効能追加の承認を取得した天然型インターフェロン ベータ製剤フエロン<sup>®</sup>を拡販したことに加え、経口そう痒症改善剤レミッチ<sup>®\*</sup>の出荷も好調に推移しました。

また、医療機器では、エンドトキシン除去向け吸着型血液浄化用浄化器トレミキシン<sup>®</sup>や透析機器の出荷が好調に推移しました。

\*この商標は鳥居薬品(株)の登録商標です。

### 2011年度OUTLOOK

医薬品・医療機器市場は、総じて堅調に推移すると見込みますが、医薬品の後発品拡大による競争激化は継続すると認識しています。

こうした事業環境の中、医薬品では、2009年3月に販売を開始したレミッチ<sup>®</sup>のさらなる拡販を進め、医療機器では、ダイアライザーの拡販を推進します。一方で、開発費用の増加もあり、ライフサイエンス事業の2011年度の売上高は550億円、営業利益は60億円を見込んでいます。



### トピックス

#### 新規ポリスルホン膜人工腎臓（ダイアライザー） トレライト<sup>®</sup>NVの本格販売開始について

東レは、ナノテクノロジーにより抗血栓性に影響する血小板の付着抑制を自社従来品に比べて飛躍的に向上させたポリスルホン膜ダイアライザーの新製品トレライト<sup>®</sup>NVを開発し、2011年4月より東レ・メディカル株式会社による本格販売を開始しました。

ダイアライザーを用いた透析療法（以下、人工透析という）は、血液を体外に循環させてダイアライザー内の中空糸膜を通すことで血液中の老廃物や余分な水分を取り除き血液を浄化します。これまで、人工透析中の生体適合性という観点から、血液が中空糸膜に接触することで血小板やタンパク質が膜表面に付着する生体防御反応の抑制が課題となっていました。

トレライト<sup>®</sup>NVは、ダイアライザーの中空糸膜表面への血小板付着（in vitro試験）を自社従来品比で1/100以下に抑制し、高い抗血栓性を実現しました。血小板の付着を大きく低減することで、透析終了時まで高い透析性能を維持できることに加え、ガンマ線を用いた東レ独自のポリマー架橋滅菌処理技術を本品にも適用し、溶出物低減を図っています。

東レはトレライト<sup>®</sup>NVの本格展開により、今後はポリスルホン膜でもさらなる体外血液循環動態の向上等、新たな生体適合性開拓を追求し、ダイアライザー事業の拡大を推進します。



### [DNAチップ 3D-Gene<sup>®</sup>]

“「平坦なガラス基板」という常識を打ち破った「凹凸構造を持つ樹脂製基板」を使った高感度DNAチップ基板は、遺伝子の検出感度を約100倍程度増加させることに成功しました。これまでの100分の1、すなわち耳かき一杯程度の組織があれば十分に検査が可能で、この程度の組織量であれば、手術ではなく胃カメラなどの検査法で採取でき、より早期に患者負担も少なく、正確な検査を実施することが可能となりました。”